

## 第2学年 道徳学習指導案

日 時 平成17年9月7日 1校時  
児 童 山形村立山形小学校 2年教室  
第2学年 男子4名 女子10名 計14名  
授業者 柏木路子 (長期研修生)

- 1 主題名 生き物のことを考えて (自然愛・動植物愛護 3 - (1))
- 2 資料名 りすとひまわり (文部省資料)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

学習指導要領道徳の第2章、第1学年及び第2学年の内容の3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(1)に「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する」とある。3の視点は、自己を自然や美しいもの、崇高なもののかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深めることに関するものであり、自然や動植物を愛し大切にすることを育てようとする内容項目である。

低学年の児童にとって、「身近な」自然環境とは、特に動植物に焦点が当てられていると思われる。これらに「親しみ、接する」ということは体験が重んじられているということであり、その際の心のありようとして「優しい心」で親しみ、接することが大切であると考えられる。

昔から日本人は、自然に親しみ、自然と一体になりながら動植物を愛護し、豊かな情操を育ててきた。しかし、地球全体の環境の悪化が懸念される現在、自然や動植物を愛し自然環境を大切にしようとする態度は、私たちも、そして次の世代を担う児童等もぜひ身に付けなければならない大切な道徳的価値である。

#### (2) 児童について

この時期の児童は、動植物に強い興味と関心をもっている。身近な動物にすぐに触れてみたり、きれいな花を見て摘んでみたり、実や種を大切に集めたりしている場面に出会うことも多い。しかし、動植物をいたわろうとする心や態度というよりも自己中心的な接し方で、一時の気まぐれや思いつきで飼ったり育てたりすることが多い。自分が飽きてしまうと、動物が死にそうになったり、植物が枯れそうになったりしていても気付かずにいる場合もある。また、対象学級の児童は、自然豊かな環境の中で生活しているがゆえに、身の回りの自然の大切さをあたりまえと感じていることが多い。このような実態は、動植物に優しい心で接することの大切さを理解できているとは言い難い。

そこでこの時期の児童に、自然の中で遊んだり動植物に触れたりする機会を多く与えながら、自らの体験をとおして、それらに優しい心で接しようとする気持ちを育てることは大切なことであると考えられる。

#### (3) 資料について

本資料は、りすが、元気のないひまわりの芽を工夫しながら一生懸命に育て、大きな花を咲かせるまでの姿を描いたものである。りすが、元気のないひまわりの様子を見たり、その願いを聞いたりして、ひまわりが何をしてほしいのかを察しながら育てていく姿を共感的に追っていくことで、自然や動植物を大切にしようという心情を育てるのに適した資料である。

#### (4) 指導にあたって

導入では、学級で飼っている生き物と触れ合う活動を組み入れる。この活動により、自分なりの生き物への思いを素直に表出させ、自分と生き物とのかかわり方について具体的なイメージをもたせながら資料の範読を聞かせる。

展開では、ねらいとする価値を理解させるために、ひまわりの気持ちを考えながら世話をしているりすの行為のよさやひまわりへの思いを考えさせ、生き物の気持ちを考えて接することの大切さを理解させる。

また、ねらいとする価値と自分とをかわらせ、価値実現への意欲をもたせるために、自分が世話をしている生き物の立場にたって気持ちを考えることで、自分のこれまでの生き物へのかかわり方を振り返らせるとともに、自分の中にもある生き物に優しく接しようとする気持ちに気付かせたい。

4 ねらい 身近な自然や動植物に親しみをもち、優しい心で接しようとする気持ちを育てる。

5 指導展開案（指導実践1）

段階	<学習活動と主な発問>	<予想される児童の反応>	<指導上の留意点>
導入	<p>1. ねらいとする価値や資料に対する興味・関心をもつ。 みんなの周りには、どんな生き物がいますか。</p> <p>2. 生活体験での思いを呼び起こす。 ・学級で飼っている生き物を観察し、または直接接触しながら、自分の生き物に対する気持ちやかかわり方について考える。</p> <p>3. 価値を自分なりに感じる ・資料「ひまわりとりす」を聞いて感想を発表し、話合いの方向性をつかむ。</p>	<p>・ハムスター ・クワガタ</p> <p>・かわいいね。 ・おなかはずいていないかな。 ・この間、餌をあげるの忘れちゃった。 ・水を飲んでるところがかわいいんだよ。</p> <p>・りすは、えらいな。 ・りすは、優しいな。 ・ひまわりが元気になってよかったな。</p>	<p>・自分たちの身近にいる生き物を思い起こさることで、ねらいとする価値や資料に対する興味・関心をもたせる。</p> <p>・生き物に対する素直な気持ちを表出させる。 ・生き物が苦手で触れられない児童も、観察して語りかけることで生き物との交流ができるようにする。</p> <p>・心に残ったことを話合ひの中で、話合ひの方向性をつかませる。</p>
展開	<p>4. 価値に対する様々な考え方を受け止める。 ・りすの行動や気持ちについて考える。</p> <p>木の陰でひよろひよろとしたひまわりの芽を見たとき、りすはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>毎日ひまわりの世話をしているりすはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>・役割演技を行い、りすの立場に立って考える。</p> <p>「りすさん、どうしてわたしのお世話をしてくれるの？」</p> <p>「毎日お世話するのは大変でしょう。」</p> <p>大きな花が咲き、大好きな種をいっぱいもらったりすは、どんなことを考えたでしょう。</p> <p>5. よりよい生き方を目指そうと思いを高める。 みんなの飼っているハムスターは今、どんな気持ちでいるでしょう。</p>	<p>・ひよろひよろで、かわいそう。 ・ぼくが、かくしていたのを忘れていたんだ。 ・こんなところにいたら、寒いだろうね。 ・お日さまにあててあげよう。</p> <p>・お日さまにあてるだけじゃ、だめだったんだね。 ・だって、ひまわりさんは、自分で動けないでしょう。 ・ぼくが、世話しないと死んじゃう。 ・ひまわりさんが喜んでくれるからうれしいよ。 ・毎年、ぼくの好きなひまわりの種をくれるのに、死んじゃったらいやだよ。 ・助けないとかわいそう。 ・ずっと忘れていてごめんね。 ・早く大きくなってね。</p> <p>・元気になってよかったね。 ・お世話を頑張ってたかったな。 ・おいしい種をくれてありがとう。 ・大切に食べるよ。 ・残った分はまた土の中にうめておくよ。</p> <p>・お掃除ありがとう。 ・餌やりを忘れないでね。</p>	<p>・倒れそうなひまわりを何とか助けたいと思う気持ちと、ひまわりの様子を見て世話をしているりすの行為のよさに目を向けられるようにする。</p> <p>・ひまわりのことを考えて、りすがどんな世話をしたかをおさえる。 ・ひまわりの気持ちに添う、世話をしているりすの行為のよさに気付かせる。</p> <p>・体験活動タイプ での思いを手がかりにしながら、毎日、世話をすると大変さと愛情がわく気持ちに気付かせる。</p> <p>・毎日、世話を続けたことでひまわりが大きく成長した喜びと充実感をとらえさせる。</p> <p>・体験活動タイプ を手がかりに振り返り活動を行い、自分の思いの中にある大切にしたい心確かめさせながら、よりよい生き方を目指そうという思いをもたせる。</p>
終末	<p>6. 教師の話を聞く。</p>		<p>・児童の日常の様子から事例を取り上げ、実践意欲につながるようにする。</p>

